

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2015年度後期 開講講座

11月7日(土) 15時開場／15時30分開会
東京・文京区男女平等センター

ロシア十月社会主義革命98周年記念
『戦争案内』(B・プレヒト)朗読と歌と講演の集い

反ファシズム闘争勝利・日本軍国主義敗北70周年

——アジア侵略・植民地支配の歴史を直視し、平和と正義・社会主義の未来を切り開こう
報告＝山下勇男 (社会主義理論研究)

- 『戦争案内』(ベルトルト・プレヒト)朗読
- 労働者のたたかひの歌

4、敗戦70年を踏まえ、女性の権利の確立を！

安倍政権は今夏、労働者派遣法「改正」案・戦争法案を強行成立させ、「女性活躍推進法」を成立させた。
「女性活躍」策では「仕事と家庭が両立できる環境整備や税制・社会保障の早期見直し」を定め「配偶者控除」等を廃止しようとしている。少子化問題、介護問題の解決のために三世帯同居家族推進を言い始め、「1億総活躍社会」の名目で現代版国家総動員体制を急速に進めている。
今回の講座で、わたしたちは、戦後厳しく生き抜いてきた方々とともに、これ以上の軍事国家体制を許さないためににも討論を重ねていきます。

- ① 11月23日(土) 当講座は詩人で女性史研究家の堀場清子氏を迎えて開講の予定でしたが、担当者が講師の方とテーマについての確認を怠ったため取りやめといたします。堀場様、ご参加を予定されていたみなさまに深くお詫びいたします。
- ② 2月20日(土) 戦争は子ども・女性・非戦闘員を守らなかった——NNNドキュメント『戦争孤児たちの遺言～地獄を生きた70年』(46分、2015年3月22日放送)を上映して討論
講師＝金田茉莉 (戦争孤児の会代表)
- ③ 3月5日(土) 国際婦人デー集会
敗戦70年を踏まえ、女性の権利の確立を！

5、日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕 (明治大学教授) (各回とも午後7時から)

15年戦争下のきびしい弾圧のなかで、兵役を強制される若者たちに呼びかけ、「歴史に働きかけてゆく能動の力」の大切さを訴えた宮本百合子。
今日なおアクチュアルな問題提起を孕むその仕事と、平林たい子による宮本百合子評伝、また呼びかけを受けた側の当時の学生たちの内面の葛藤をうかがわせる手記を中心に、歴史と現実とを翻弄されながらも屈してしまふことを拒み続けた精神の軌跡を、ていねいに見つめ検証していきたい。
なお、HOWS講座のフィールドワークの一環として9月初旬に実施した無言館訪問と関連づけて考えるため、戦没画学生の手記も合わせて取り上げる予定。

- ① 11月17日(火) 宮本百合子『『大人の文学』論の現実性』(全集第十一巻あるいは選集第七巻所収、新日本出版社)、『生活者としての成長』(全集第十二巻あるいは選集第八巻所収、新日本出版社)ほかの論説文
- ② 12月8日(火) 平林たい子『宮本百合子』(講談社文芸文庫)
- ③ 1月19日(火) 『新版きけわだつみのこえ』から佐藤孝、関口清、和田稔、三崎邦之助の手記を中心に(『新版きけわだつみのこえ』所収、岩波文庫)
- ④ 3月1日(火) 『新版きけわだつみのこえ』から住吉胡之吉、上原良司、木村久夫の手記を中心に(『新版きけわだつみのこえ』所収、岩波文庫)

1、集団的自衛権行使容認、戦争法の「成立」を受けて

——日本社会の反動化の急進とどう闘うか

安倍政権は、昨年の集団自衛権行使容認閣議決定に続き、戦争法案を国会前・全国での反対の声を無視して強行採決しました。戦争法成立後、日本社会は急速に反動化が進んでいます。強行採決前の戦争法案阻止の闘いを持続し強化するためにはなにが必要かが問われています。その手がかりをここで探ります。

- ① 11月25日(水) 特定秘密保護法、戦争法と報道の責任
講師＝新崎盛吾 (新聞労連委員長)
- ② 12月2日(水) 「戦争する国」に向けた刑法改正阻止へ——冤罪誘発・盗聴拡大の新治安立法を許すな
講師＝山口正紀 (ジャーナリスト/「人権と報道・連絡会」世話人)
- ③ 12月16日(水) 総がかり行動からなにを受け継ぐか
講師＝飯島滋明 (名古屋学院大学准教授/戦争をさせない1000人委員会事務局次長)
- ④ 12月19日(土) 朝鮮敵視政策と闘おう——十月訪朝団による現地画像の紹介と報告を受けて
報告＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム) / 十月訪朝団

2、戦後70年安倍談話を解剖する

——日本人の「敗戦70年歴史認識」を確立するために

侵略戦争を起こした日本帝国主義の敗北から70年目、安倍首相は「戦後70年安倍談話」を公表しました。その内容は、明治以降の近・現代日本の朝鮮植民地化、中国に対する侵略をはじめとするアジアに対する侵略・植民地支配を隠蔽したものです。戦争法が強行成立した状況にふまえ、「安倍談話」を批判し、日本人による「敗戦70年の総括」をなすとげるために以下のような講座を用意しました。

- ① 11月14日(土) 侵略・植民地支配の歴史の抹殺——日朝人民の階級的連帯を求めて
報告＝土松克典 (韓国労働運動研究)
- ② 11月28日(土) 沖縄切り捨ての歴史と辺野古新基地建設——「沖縄・基地案内」(小川町シネクラブ制作 1999年・90分)上映と討論
進行＝日向よう子 (HOWS受講生/辺野古への基地建設を許さない実行委員会)
- ③ 1月27日(水) 日本の戦後補償の問題点——東南アジアの歴史をつうじて考える
講師＝倉沢愛子 (慶應義塾大学名誉教授)
- ④ 2月13日(土) 歴史は墨でぬりつぶせない——日本軍「慰安婦」問題の解決を！
講師＝中原道子 (VAWW RAC「戦争と女性への暴力」リサーチアクションセンター)共同代表)
- ⑤ 3月12日(土) 「平和な戦後日本」のまやかし——新植民地主義によるアジアへの新たな経済侵略
『戦争案内』(監督：高岩 仁 2006年・70分)上映と討論
講師＝金野正晴 (自営業)
- ⑥ 3月30日(水) 日本社会の病巣——その根源にある天皇制
講師＝石川逸子 (詩人)

3、わたしの労働運動論

——50年間、闘いの現場で考えたこと

講師＝二瓶久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)

全体として右傾化し弱体化した日本の労働組合運動が、資本の攻撃の前に後退を重ねてきた現状をいかに打破するか。運動の弱点をどう総括し、階級的労働運動の再建を図るかは、我々にとって焦眉の課題だ。
50年間にわたり労働組合の指導部において、集団的な労使関係で資本と対峙し、労働三権(団結権・団体交渉権・争議権)をフルに発揮して闘ってきた二瓶久勝氏の経験から学び、職場・地域での労働運動再建の一步へと結びつけていこう。

- ① 11月21日(土) 職場の労働者をどうオルグし、組織するのか
- ② 12月12日(土) 賃金闘争の意義と闘いの基本について
- ③ 2月24日(水) ストライキ闘争の意義と戦術について
- ④ 3月19日(土) 非正規労働者の問題から労働運動の再生を展望する
- ⑤ 4月16日(土) 国鉄闘争の総括と教訓——労働講座の総括

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。
今期は以下のプログラムで開催します。

- 一、われわれのアクチュアルな文化の創造を目指して
- 2015年11月23日(月・休) 午後2時～5時
テーマ：戦後短歌史の概略と我が師藤田武
報告：加部洋祐
- 2016年1月17日(日) 午後2時～5時
テーマ：加部洋祐著『亞天使』——朗読と合評
朗読：加部洋祐、齊藤光太郎、飯島 聡
報告：戦後文学ゼミ会員
- 二、核に向き合う文学と戦争責任
- 2016年3月20日(日) 午後2時～5時
テーマ：石川逸子著『戦争と核と詩歌』合評
報告：齊藤光太郎ほか
- 三、敗戦後70年の今日において、「民主主義文学運動の出発」に立ち返る
- 2016年4月17日(日) 午後2時～5時
テーマ：序説：宮本百合子の戦中・戦後——『婦人と文学』(1948年)を読む
報告：松岡慶一

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。

- これまでの制作・作品には、次のものがあります。
- 1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 4) 戦争を止めよう！ II
- 5) いま、私たちの労働現場から II
- 6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改悪は誰のため？
- 7) 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 8) 共闘こそ力！——壊憲を許すな
- 9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
- 10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 11) 不安だらけの未来はいらない
- 12) 利益優先の社会はいらない——闘おう！ 未来のために
- 13) さし迫る壊憲の危機——知らなかったではすまされません
- 14) すでに始まっている戦争への道——私たちの戦争案内 II

6、フィールドワーク (要事前予約)

- ① 12月5日(土) 第36回朝鮮大学校定期演奏会鑑賞
- ② 1月10日(日) 岡本太郎と中村正義「東京展」を観て (2015年10月17日(土)～2016年1月11日(月・休) / 川崎市岡本太郎美術館)
講師＝笹木繁男 (美術ドキュメンタリスト)
ゲスト＝金山明子・政紀 (画家)
- ③ 3月26日(土) 第五福竜丸展示館を訪ねて
案内＝安田和也 (主任学芸員)

7、この人にきく

- ① 1月30日(土) 中国の社会主義を考える——映画『天雲山物語』(1980年・125分 監督：謝晋(代表作『芙蓉鎮』,ほか))を観て考える
解説＝村田忠禧 (横浜国立大学名誉教授)
- ② 2月3日(水) 経済危機・破綻——その下での「一億総活躍」の名による国民総動員策——『帝国主義支配を平和だという倒錯』(社会評論社)を素材に
講師＝鎌倉孝夫 (埼玉大学名誉教授)
- ③ 4月2日(土)～3日(日) 福島原発被災地を訪ねて
案内＝國分富夫 (「原発事故被害者 相双の会」会長)
※2月27日(土)に予定していた講座は上記に変更しました。
- ④ 3月16日(水) 『朝鮮半島と日本の詩人たち』を上梓して
講師＝卞宰洙 (元朝鮮大学校教授)

HOWS講座カレンダー 2015年度後期 (11月～3月)

11月7日(土)	ロシア十月社会主義革命98周年記念 反ファシズム闘争勝利・日本軍国主義敗北70周年——アジア侵略・植民地支配の歴史を直視し、平和と正義・社会主義の未来を切り開こう 報告＝山下勇男 (社会主義理論研究)
11月14日(土)	『戦争案内』(B・プレヒト)朗読・労働者のたたかひの歌
11月14日(土)	侵略・植民地支配の歴史の抹殺——日朝人民の階級的連帯を求めて 報告＝土松克典 (韓国労働運動研究)
11月17日(火)	日本の短編小説を読む——宮本百合子『大人の文学』論の現実性(全集第十一巻あるいは選集第七巻所収、新日本出版社)、『生活者としての成長』(全集第十二巻あるいは選集第八巻所収、新日本出版社)ほかの論説文 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
11月21日(土)	わたしの労働運動論——職場の労働者をどうオルグし、組織するのか 講師＝二瓶 久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)
11月25日(水)	特定秘密保護法、戦争法と報道の責任 講師＝新崎盛吾 (新聞労連委員長)
11月28日(土)	沖縄切り捨ての歴史と辺野古新基地建設——「沖縄・基地案内」(小川町シネクラブ制作 1999年・90分)上映と討論 進行＝日向よう子 (HOWS受講生/辺野古への基地建設を許さない実行委員会)
12月2日(水)	「戦争する国」に向けた刑法改正阻止へ——冤罪誘発・盗聴拡大の新治安立法を許すな 講師＝山口正紀 (ジャーナリスト/「人権と報道・連絡会」世話人)
12月5日(土)	第36回朝鮮大学校定期演奏会鑑賞
12月8日(火)	日本の短編小説を読む——平林たい子『宮本百合子』(講談社文芸文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
12月12日(土)	わたしの労働運動論——賃金闘争の意義と闘いの基本について 講師＝二瓶 久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)
12月16日(水)	総がかり行動からなにを受け継ぐか 講師＝飯島滋明 (名古屋学院大学准教授/戦争をさせない1000人委員会事務局次長)
12月19日(土)	朝鮮敵視政策と闘おう——十月訪朝団による現地画像の紹介と報告を受けて 報告＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム) / 十月訪朝団
1月10日(日)	岡本太郎と中村正義「東京展」(2015年10月17日(土)～2016年1月11日(月・休) / 川崎市岡本太郎美術館)を観て 講師＝笹木繁男 / ゲスト＝金山明子・政紀 (画家)
1月19日(火)	日本の短編小説を読む——『新版きけわだつみのこえ』から佐藤孝、関口清、和田稔、三崎邦之助の手記を中心に(『新版きけわだつみのこえ』所収、岩波文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
1月27日(水)	日本の戦後補償の問題点——東南アジアの歴史をつうじて考える 講師＝倉沢愛子 (慶應義塾大学名誉教授)
1月30日(土)	中国の社会主義を考える——映画『天雲山物語』(1980年・125分 監督：謝晋(代表作『芙蓉鎮』,ほか))を観て考える 解説＝村田忠禧 (横浜国立大学名誉教授)
2月3日(水)	経済危機・破綻——その下での「一億総活躍」の名による国民総動員策——『帝国主義支配を平和だという倒錯』(社会評論社)を素材に 講師＝鎌倉孝夫 (埼玉大学名誉教授)
2月13日(土)	歴史は墨でぬりつぶせない——日本軍「慰安婦」問題の解決を！ 講師＝中原道子 (VAWW RAC「戦争と女性への暴力」リサーチアクションセンター)共同代表)
2月20日(土)	戦争は子ども・女性・非戦闘員を守らなかった——NNNドキュメント『戦争孤児たちの遺言～地獄を生きた70年』(46分、2015年3月22日放送)を上映して討論 講師＝金田茉莉 (戦争孤児の会代表)
2月24日(水)	わたしの労働運動論——ストライキ闘争の意義と戦術について 講師＝二瓶 久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)
3月1日(火)	日本の短編小説を読む——『新版きけわだつみのこえ』から住吉胡之吉、上原良司、木村久夫の手記を中心に(『新版きけわだつみのこえ』所収、岩波文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
3月5日(土)	国際婦人デー集会 敗戦70年を踏まえ、女性の権利の確立を！
3月12日(土)	「平和な戦後日本」のまやかし——新植民地主義によるアジアへの新たな経済侵略 『戦争案内』(監督：高岩 仁 2006年・70分)上映と討論 講師＝金野正晴 (自営業)
3月16日(水)	『朝鮮半島と日本の詩人たち』を上梓して 講師＝卞宰洙 (元朝鮮大学校教授)
3月19日(土)	わたしの労働運動論——非正規労働者の問題から労働運動の再生を展望する 講師＝二瓶 久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)
3月26日(土)	第五福竜丸展示館を訪ねて 案内＝安田和也 (主任学芸員)
3月30日(水)	日本社会の病巣——その根源にある天皇制 講師＝石川逸子 (詩人)
4月2日(土)～3日(日)	福島原発被災地を訪ねて 案内＝國分富夫 (「原発事故被害者 相双の会」会長)
4月16日(土)	わたしの労働運動論——国鉄闘争の総括と教訓——労働講座の総括 講師＝二瓶 久勝 (元国鉄闘争共闘会議 議長)

《2015年度後期募集要項》

- 定員 本科生40名 (10月20日(火)より募集)
- 全講座30回 (各週1～2回程度)
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿(前期)や、懇親会などの企画があります。

◎聴講生20名

シリーズを問わず、自由に講座が選べる聴講チケットがあります。

- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円 (次期以降は不要)
受講料…前期：3万円、後期：3万円
・前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円 (12枚綴り)
8,000円 (6枚綴り)
・聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・2015年度後期の聴講チケットは、2016年度前期にも使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円 (各講座1回につき)
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただけます。
- 申込方法
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。